平成３０年２月２３日

平成２９年度学校評価アンケート結果

学校評価に係るアンケートを実施しましたが、集計結果についてお知らせします。ご多用の中、ご協力いただきありがとうございました。

１　調 査 期 日　　平成２９年１１月１６日

２　対象[回答率]　　本校保護者（最長兄姉）５３２名[83.6%]及び生徒５８９名[87.9%]

３　回 答 結 果　　以下のとおり

回答は、「4…よくあてはまる　3…おおむねあてはまる　2…あまりあてはまらない　1…まったくあてはまらない」の中からの選択式。アンケート結果を集計・分析するために、4～1 の回答選択肢に対し、それぞれに 4 点～1 点の数値を割り当てて点数化し、各質問項目別で平均をとることにしました。これにより、最高点を 4 点満点として表されたことになります。

【保護者】

質問事項

ア　自分の子どもは、学校生活を楽しんでいる。
イ　自分の子どもを大和中学校に入学させて良かった。
ウ　学校の行動目標が「明るく、元気で、努力する学校」であることを知っている。
エ　学校は、家庭への連絡や情報提供を積極的に行っている。
オ　学校は、家庭や地域の人たちが気がねなく出入りできる、親しみやすい学校である。
カ　学校は、わかりやすい授業に努めている。
キ　生徒は、意欲的に授業に取り組んでいる。
ク　自分の子どもの学力は向上している。
ケ　学校は、自分の子どもを公平に正しく評価している。
コ　学校の教室や施設・設備は、生徒が学習しやすいように整備されている。
サ　生徒は、あいさつがよくできている。
シ　学校は、いじめなどのない楽しい学校をつくろうとしている。
ス　学校は、社会のルールや学校のきまりについて厳しく指導している。
セ　学校は、自分の子どもの相談事や悩みなどについて適切に応じている。
ソ　先生たちは、自分の子どものことをよく理解してくれている。
タ　大和中の生徒は、交通ルールをきちんと守って通行している。
チ　自分の子どもは、毎日、きちんと朝食をとっている。
ツ　生徒会活動や委員会活動は、充実している。
テ　修学旅行、体育大会や文化発表会などの学校行事は、自分の子どもにとって楽しく充実している。
ト　部活動は、自分の子どもにとって充実した活動になっている。
ナ　学校は、校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。
ニ　学校は、命を大切にする心や思いやりの心を育てようとしている。
ヌ　自分の子どもは、ふるさと大和や佐賀県の自然や歴史、産業などについて理解している。
ネ　学校は、小学校との交流を積極的に取り組んでいる。自分の子どもは、学校生活を楽しんでいる。

保護者対象の集計結果は、**ア～ネ**の質問項目の中で、最も平均点が高かったのは、

「**チ**　自分の子どもは、毎日、きちんと朝食をとっている」

の 3.6 点でした。基本的生活習慣に関わりますので、4 点満点を目指したいところです。他にも

「**ア** 自分の子どもは、学校生活を楽しんでいる」

「**イ** 自分の子どもを大和中学校に入学させて良かった」

「**テ** 修学旅行、体育大会や文化発表会などの学校行事は、自分の子どもにとって楽しく充実している」

で、どれも 3.5 点の高い評価結果でした。一方で、最も低い平均点だったのは、

「**ク** 自分の子どもの学力は向上している」

の 2.7 点でした。

「**タ** 大和中の生徒は、交通ルールをきちんと守って通行している」

「**キ** 生徒は、意欲的に授業に取り組んでいる」

についてもそれぞれ 2.8 点、3.0 点という低い結果でした。

体育大会や文化発表会など学校行事については、確かに活躍するそれぞれの場ですばらしいパフォーマンスを発揮しています。参観された多くの保護者からもそのたびに好評いただきました。**ク**の結果からもその積極的な取り組みが学習面に表れておらず、生かされていません。実は、学習時間について、家庭学習が十分ではないことは、4 月の意識調査の結果からも明らかで、全国平均や県平均を下回っていました。学力向上は学校での授業だけでは改善が難しく、家庭学習の充実も要因の一つだと考えます。

学力向上について、これまで学校だよりでもたびたび書いていました。たとえば、第 4 号（5 月 22 日発行）にも「暗記中心から『活用』へ」という見出しで変わろうとしている大学入試の在り方を例に触れていました。また、学習指導要領（各教科で教える内容を定めたもの）の次期改訂にともない、2 月 21 日付けの教育新聞に次のような記事が掲載されていました。

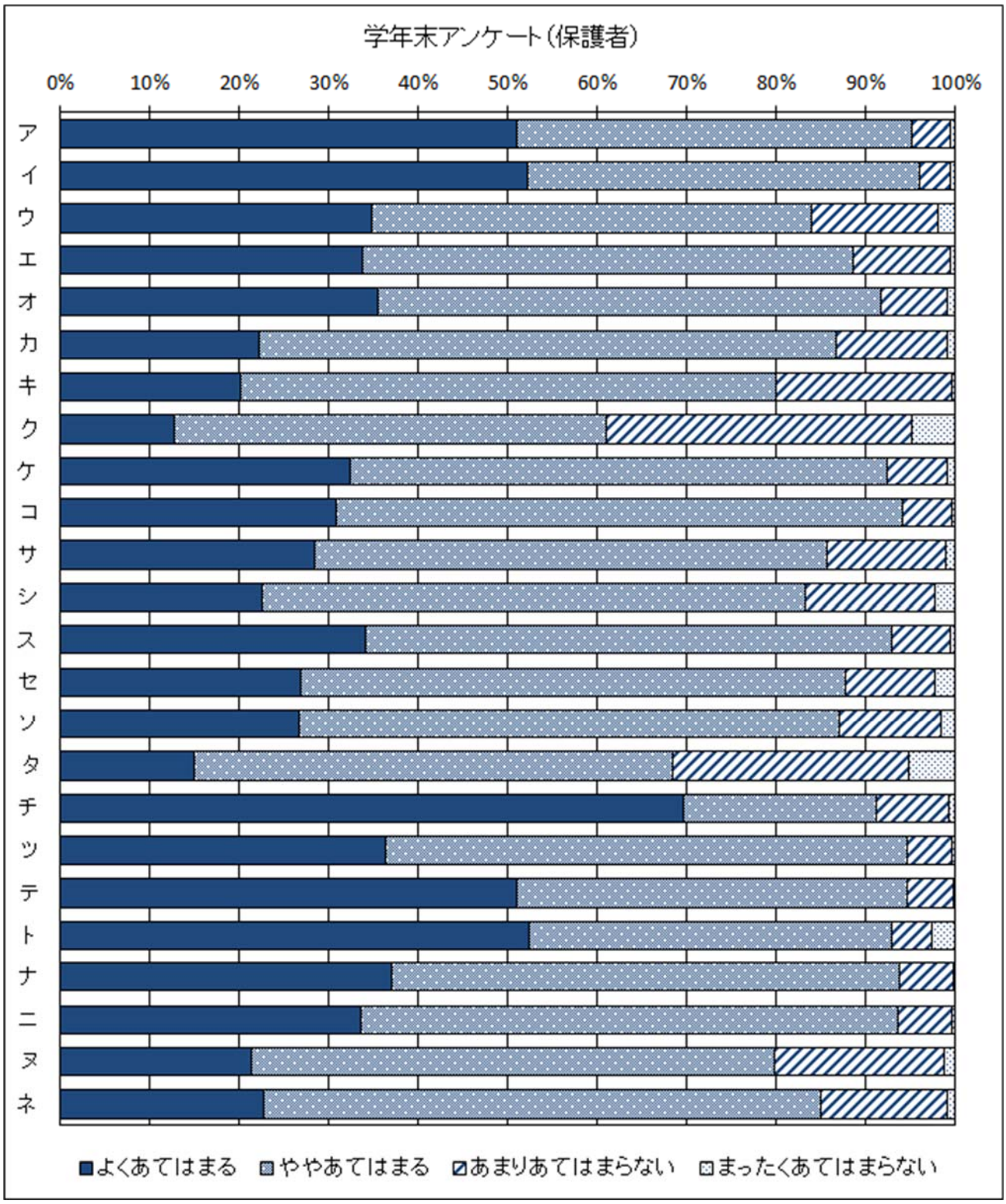
> 2 月 20 日に開かれた教育課題研究発表会（都教委主催）で、教職員支援機構・次世代型教育推進センターの大杉昭英上席フェローが、「新学習指導要領の趣旨を実現する教員の資質・能力」をテーマに講演した。大杉氏は、まず教える側が見方・考え方を働かせて、新学習指導要領の意図を理解し、授業づくりに反映していく重要性を語った。
>
> 同氏は大学の入試問題などを引用しながら、新しい時代に求められるのは、学校の中でしか役に立たない学びではなく、社会の中で役立つ学びであると解説。「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、「子供たち自身が見方・考え方を持って、さまざまな対象に出会ったときに質の高い知識や技能を使って考え、判断していける授業をつくることが重要」だとした。
>
> 新学習指導要領の趣旨を実現するために求められる教員の資質については、「川の中州に咲く菜の花を見て、生物教員に『きれいですね』と話しかけたら、『本来、菜の花はああいった場所に咲かない。種子が洪水か何かで漂着して咲いているのだろう』と返ってきた。その答えから、現象を捉え、何を対象にしてどう考えるかという枠組みを、その教員が持っていることに気付いた」と自身のエピソードを交えて話し、「目の前のさまざまな事象に対して、教えるわれわれ自身が見方・考え方を把握し、教材化していかなければならない。それが最も大きい資質能力だ」と語った。
>
> また、単元全体というマクロな視点で、思考力や判断力、表現力を育む必要があるとして、答えが定まっている問題、定まっていない問題を、単元や年間指導計画の中で配分、構成していく力も求められると述べた。
>
> 2018 年 2 月 21 日 教育新聞

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために指導法改善については、職員研修を深め、引き

続き計画的に取り組んでいきます。

また、**タ**の交通ルール（自転車通学のマナー）については、地域の方からも連絡をいただくことがありました。登校中、高校生との接触も起こりました。学校では、折に触れ、説諭を繰り返し、注意喚起を含めて指導しています。ご家庭でもご協力いただきたいところです。生徒会でも専門委員会で取り組んでいこうとしています。合わせて、朝の登校時間について、遅刻をしないことは当然ですが、もう一歩進んで、時間的に余裕をもって登校できるような心がけが求められます。

すべての質問項目についての全学年保護者分の集計結果は、次のようなグラフになりました。全体の概要になります。

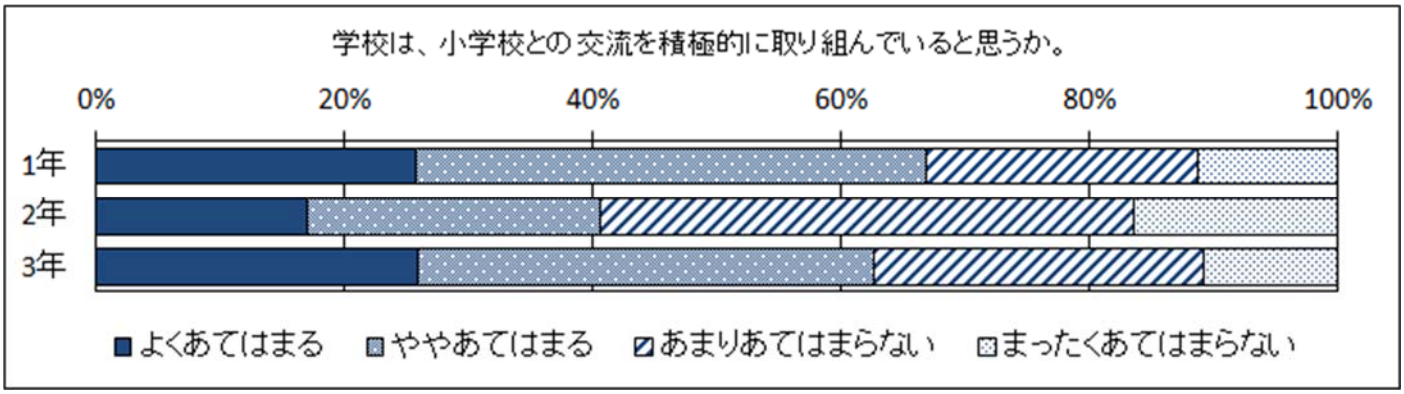


次に、同じように生徒対象の集計結果です。

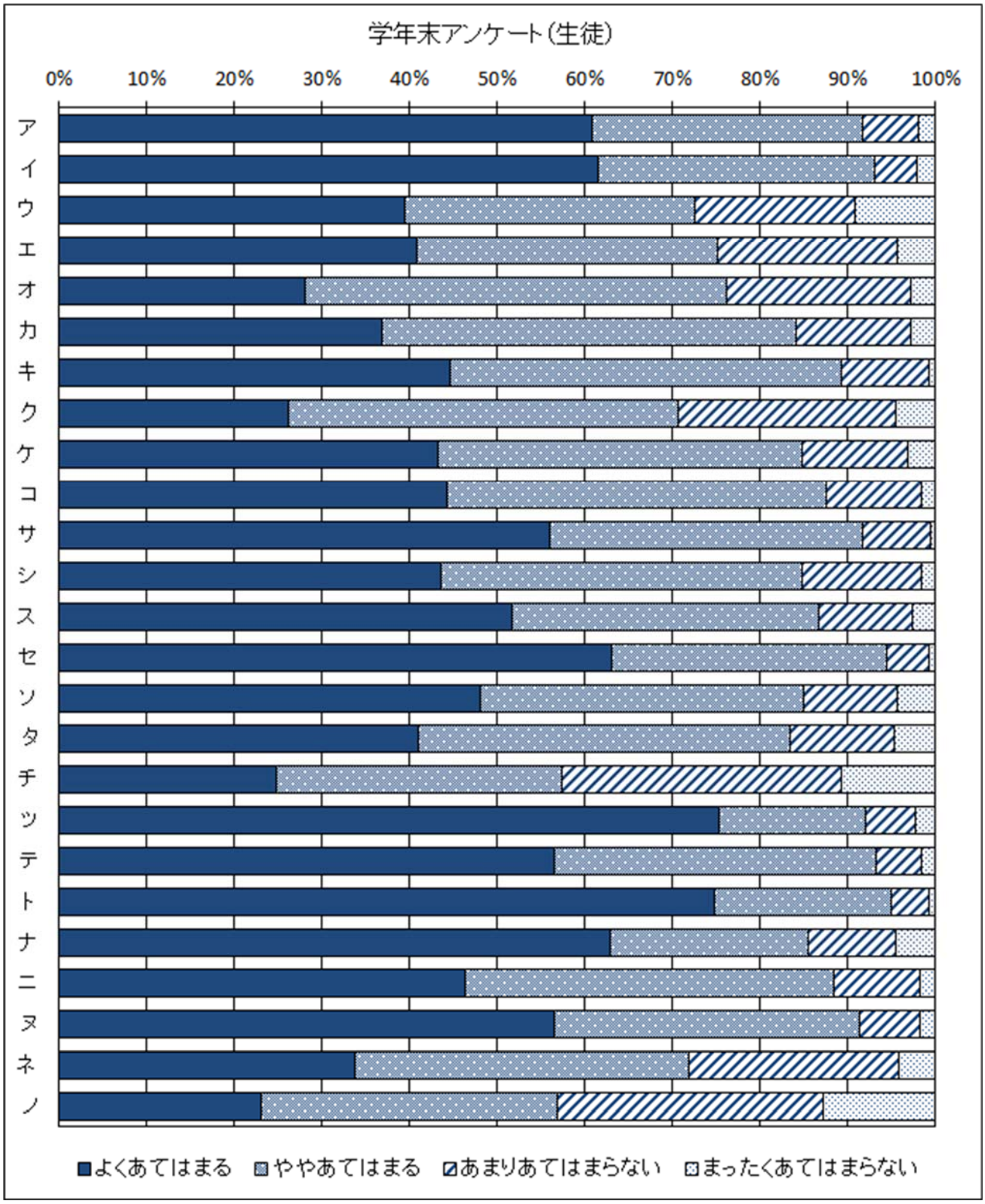
【生徒】
質問事項

ア 学校生活は楽しい。
イ 大和中学校に入学して良かったと思う。
ウ 学校の行動目標が「明るく、元気で、努力する学校」であることを知っている。
エ 学校からの配布物や「たより」などを確実に保護者に見せている。
オ 大和中学校には、家庭や地域から多くの人が出入りしている。
カ 学校は、わかりやすい授業に努めている。
キ 授業中、しっかりと先生の話を聞き、やる気をもって学習に取り組んでいる。
ク 自分の学力は向上している。
ケ 学校は、自分を公平に正しく評価している。
コ 学校の教室や施設・設備は、学習しやすいように整備されている。
サ 自分は、チャイム着席を守り、授業を受ける準備ができている。
シ 自分は、あいさつがよくできている。
ス 学校は、いじめなどのない楽しい学校をつくろうとしている。
セ 学校は、社会のルールや学校の決まりについて厳しく指導している。
ソ 先生たちは、自分の相談事や悩みなどについてきちんと応じてくれる。
タ 先生たちは、自分のことをよく理解してくれている。
チ 自分は、交通ルールをきちんと守って通行している。
ツ 自分は、毎日、きちんと朝食をとっている。
テ 生徒会や委員会は、充実した活動をおこなっている。
ト 修学旅行、体育大会や文化発表会などの学校行事は、楽しく充実している。
ナ 部活動は、自分にとって充実した活動になっている。
ニ 学校は、校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。
ヌ 学校は、命を大切にする心や思いやりの心を育てようとしている。
ネ 自分は、ふるさと大和や佐賀県の自然や歴史、産業などについて理解している。
ノ 学校は、小学校との交流を積極的に取り組んでいる。

回答は、保護者と同じく、4～1 の中から選択式でした。点数化した結果、高い評価だったのは、
「**ト** 修学旅行、体育大会や文化発表会などの学校行事は、楽しく充実している」
「**ツ** 自分は、毎日、きちんと朝食をとっている」
「**セ** 学校は、社会のルールや学校の決まりについて厳しく指導している」
で、平均点はそれぞれ 3.7 点、3.6 点、3.6 点でした。学校行事と朝食摂取については、保護者の回答と同様な傾向があり、生徒自身も実感しているといえます。「社会のルールや学校の決まりについての指導」では、どの学年も 3.5～3.6 点で、学年に偏りなく、全体的に高い評価でした。保護者の平均点は生徒よりやや低く、3.3 点でした。一方で、平均点が低い評価は、
「**ノ** 学校は、小学校との交流を積極的に取り組んでいる」
「**チ** 自分は、交通ルールをきちんと守って通行している」
「**ク** 自分の学力は向上している」
でした。この３項目の平均点はそれぞれ 2.7 点、2.7 点、2.9 点。**ノ**の小学校との交流については、1 年 2.8 点、2 年 2.4 点、3 年 2.8 点でした。「ようこそ先輩」のように計画的に仕組む必要があります。小学校とも連携し、地区で開催されている行事に積極的な参加を期待したいところです。



すべての質問項目で、全校生徒の集計結果は次のようなグラフになりました。全体概要です。



特徴的なこととして、次のような傾向がありました。

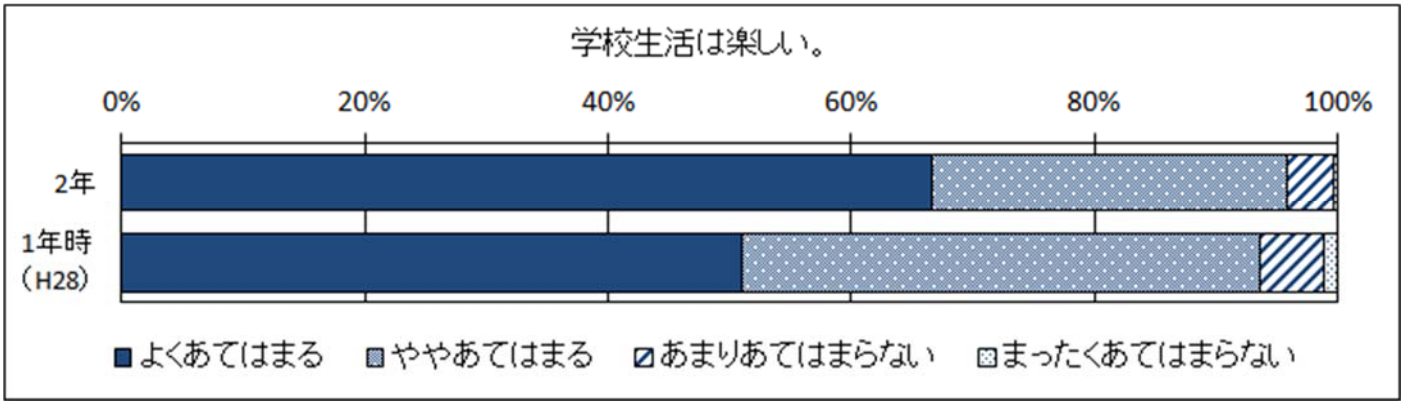
「**ア** 学校生活は楽しい」について、各学年の平均は、1年3.6点、2年3.5点、3年3.4点でどの学年も高い評価結果でした。経年で比較すると、現2年生は1年時より平均点が0.2ポイント増加し、現3年生は、3年間3.2点～3.4点で推移しています。ただ、5%ぐらいの生徒が「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答しており、見逃すことなく手立てが必要といえます。

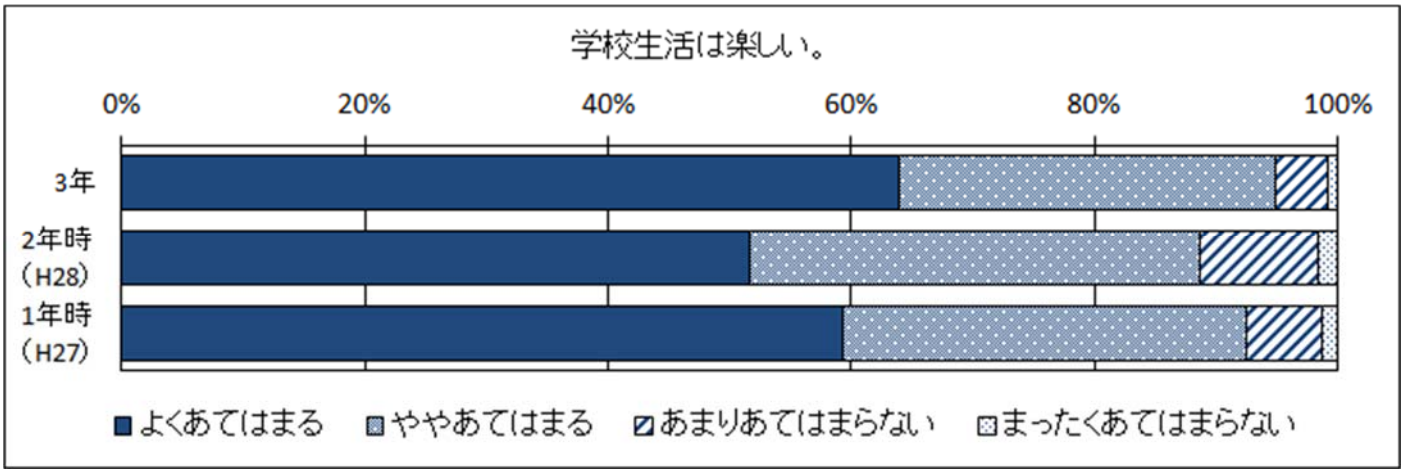
「**ト** 修学旅行、体育大会や文化発表会などの学校行事は、楽しく充実している」についても同じ傾向が見られ、より主体的に取り組もうとする姿が表れています。**ト**の各学年の平均は、1年3.7点、2年3.6点、3年3.7点でどの学年も高い評価結果でした。

アと**ト**の両質問項目について、1年前や2年前と経年比較をし、生徒の変容をみてみました。グラフで表すと、次のように若干違いがありました。

ア 学校生活は楽しい

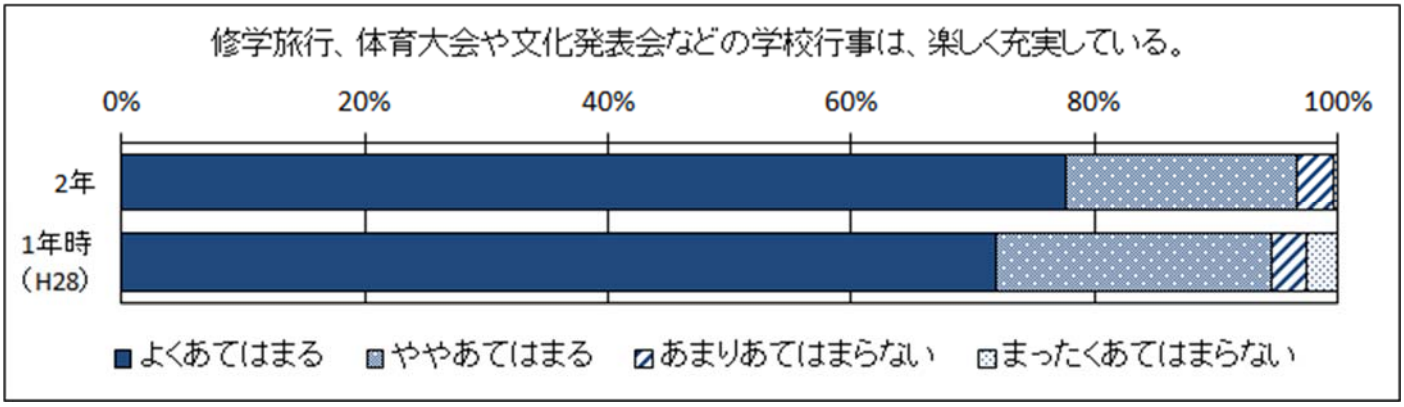
…現2年生3.5点【1年時3.3点】、現3年生3.4点【2年時3.2点、1年時3.3点】

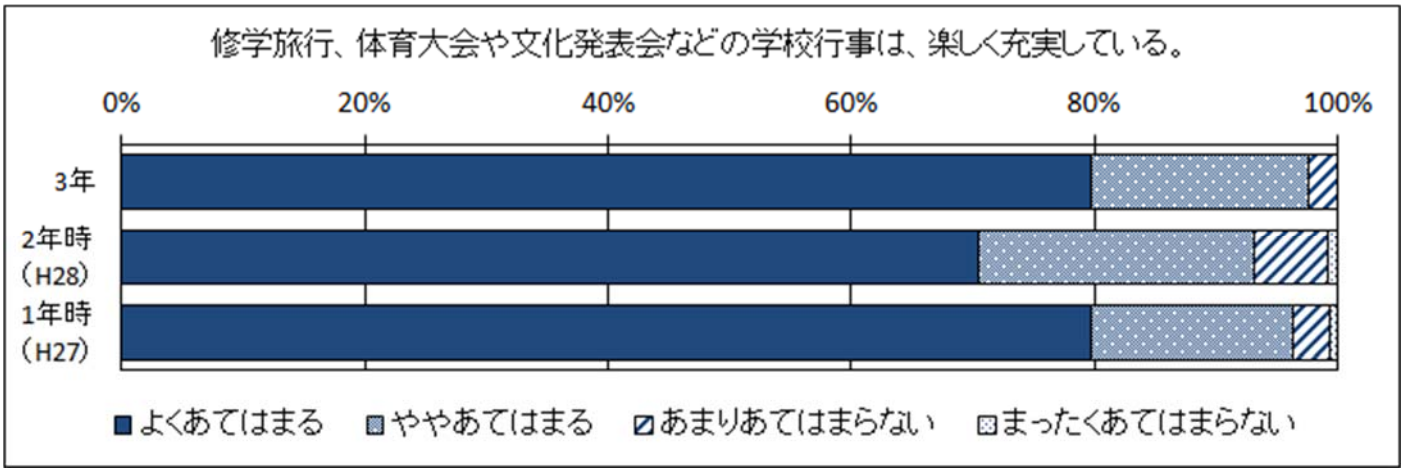




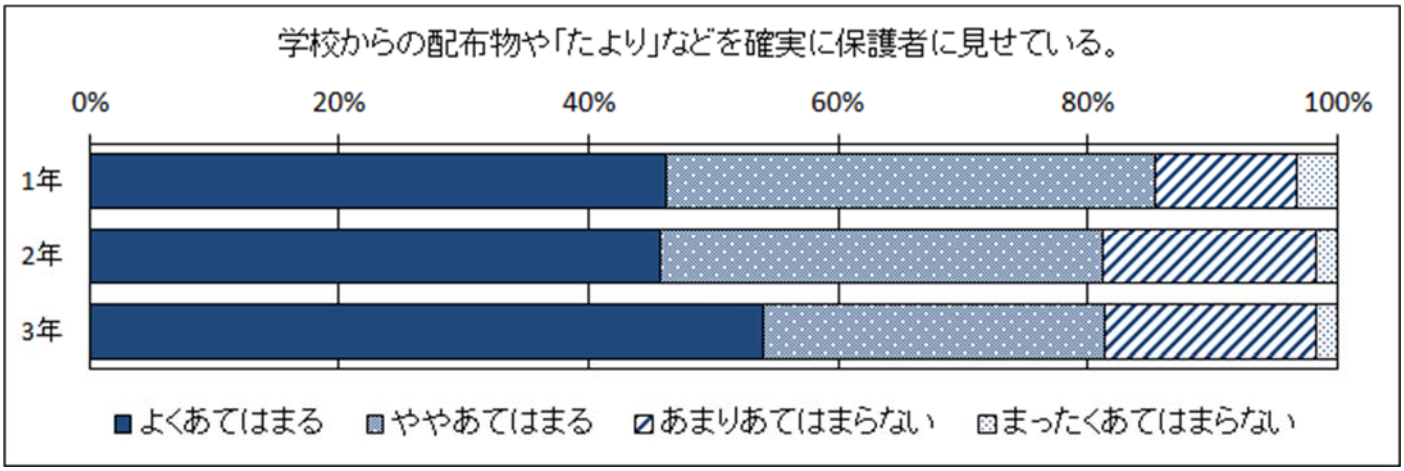
ト 修学旅行、体育大会や文化発表会などの学校行事は、楽しく充実している

…現2年生3.6点【1年時3.4点】、現3年生3.7点【2年時3.4点、1年時3.6点】



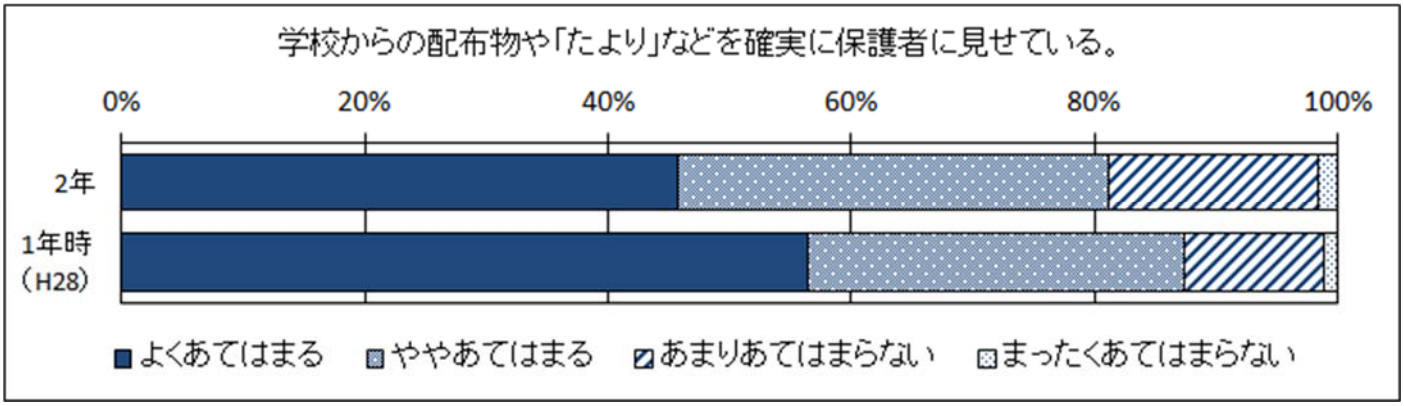


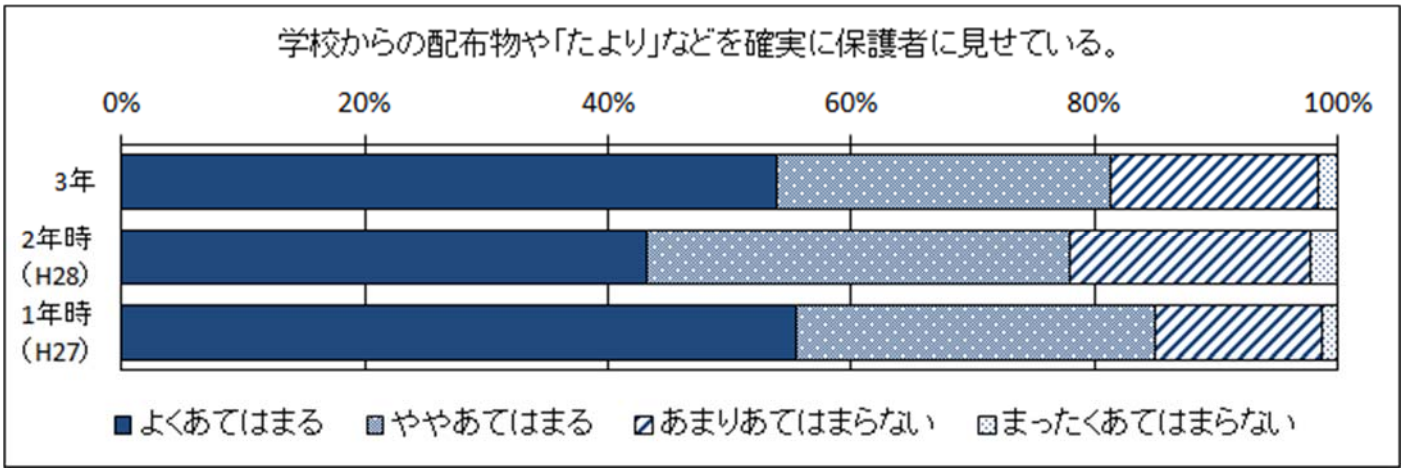
もう一つ、特徴的なものとして、「**エ** 学校からの配布物や『たより』などを確実に保護者に見せている」についてです。



平均 3.1 点（1 年 3.3 点、2 年 3.0 点、3 年 3.1 点）で、グラフからもどの学年も 8 割以上の生徒が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答していることが分かり、おおむね良好な結果でしたが、全校で 22 名の生徒が「まったくあてはまらない」と回答していました。

2 年生と 3 年生について、同質問項目で経年比較をしたグラフが次です。2 年生は 1 年時より平均点が下がる傾向が見られ、改善が求められます。3 年生も 2 年時は下がりましたが、3 年時に 0.2 ポイント増加しました。3 年になると入試関係の配布物が多くなり、結果的に見せるようになった表れでしょうか。





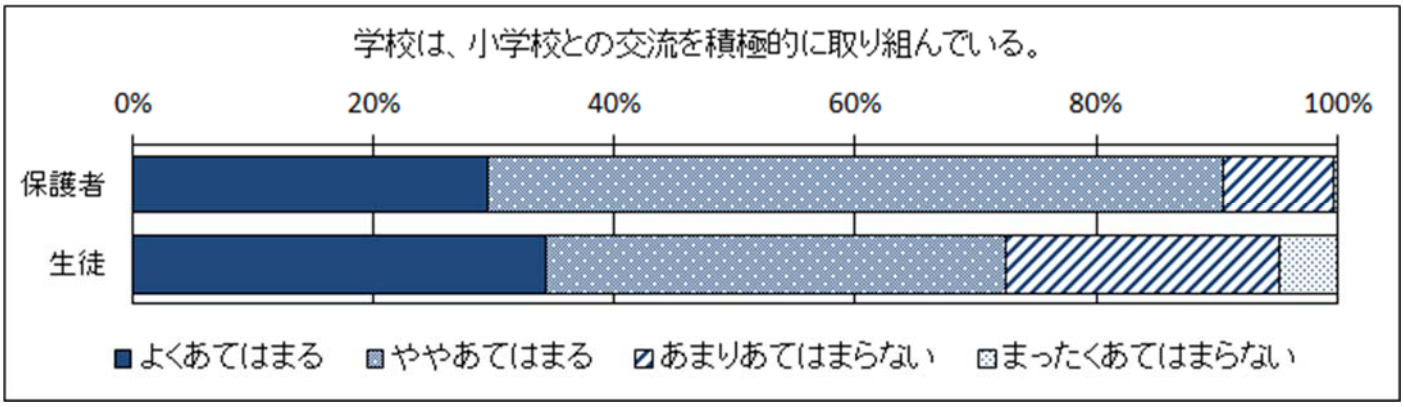
学校での出来事などを話題とした家族の団欒の時間と学力については、相関関係があるといわれています。今年度は、学校だよりは毎月 2 回発行をしており、学校 Web の更新も「日々更新」「即日更新」を目指し、学校行事を中心にアップしています。その他、学年だよりや学級だよりなども定期的に発行されています。年に 2 回あるフリー参観デーだけではなく、いろいろな学校行事にもぜひ都合をつけて来校いただき、話題の一つにしてもらえれば幸いです。

次に、保護者と生徒の両方に共通する質問項目で、特徴的な回答をクロス集計的に比較してみました。ほとんど大きな差はみられませんでしたが、次のような傾向が見られました。保は保護者への質問、生は生徒への質問を表し、〈　〉の数は平均点を示しています。

(1) 学校は、小学校との交流を積極的に取り組んでいる。

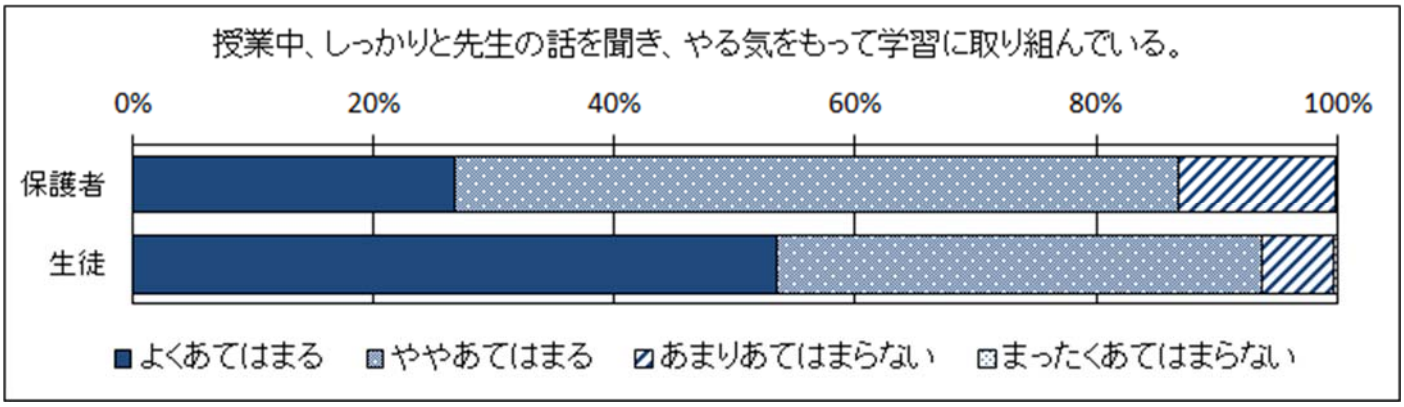
保（ネ）〈3.1〉　生（ノ）〈2.7〉

保護者と生徒の意識の違いが最も大きくなりました。前にもあったように、行事やイベントを仕組めば意識が高まると思われますが、小中連携の意味からも積極的に働きかけていきます。



(2) 授業中、しっかりと先生の話を聞き、やる気をもって学習に取り組んでいる。

保（キ）〈3.0〉　生（キ）〈3.3〉



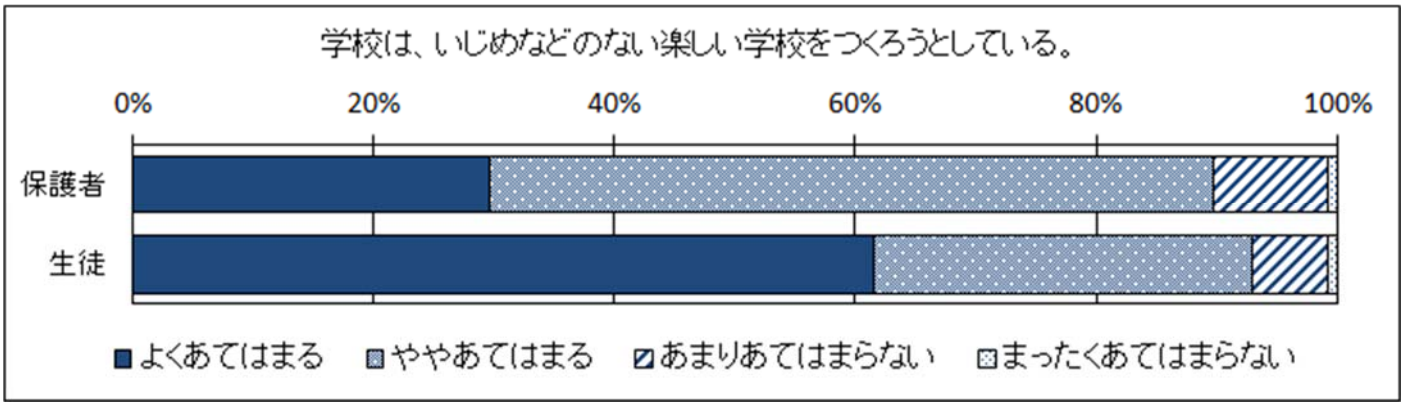
学習への取り組む授業の姿勢ですが、生徒の方は高く意識をしているようです。保護者の評価が低いのは、成績が伸び悩み、それが授業の取り組み方に課題があると判断した結果でしょうか。

(3) 学校は、いじめなどのない楽しい学校をつくろうとしている。

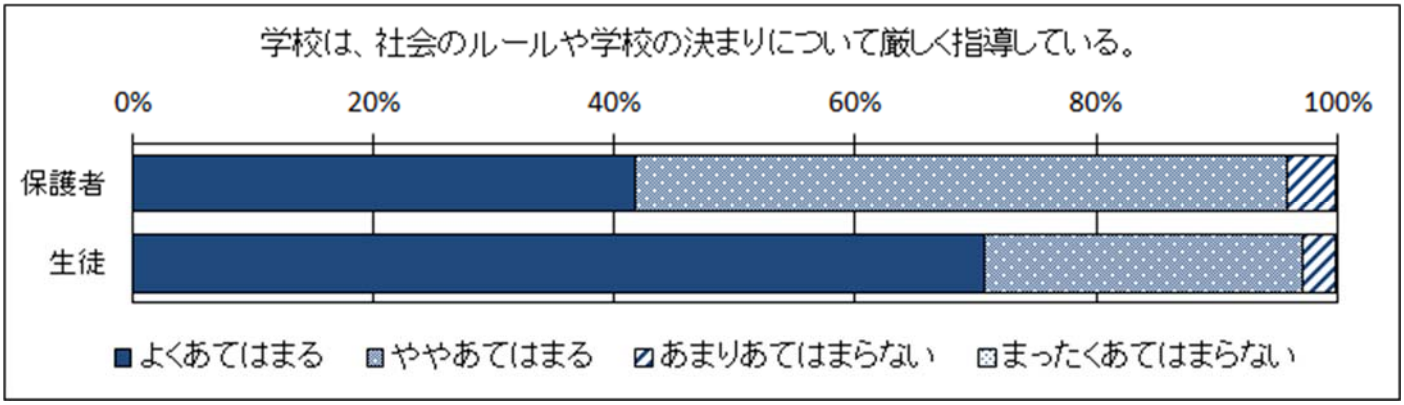
保（シ）〈3.0〉　生（ス）〈3.4〉

これも生徒の評価が高く、保護者の評価が低い結果となりました。いじめについては、毎月初めに「いじめ・命を考える日」を定め、全校集会で、生徒会本部が中心となって宣言を群読したり、呼びかけたりしています。また、人権週間に合わせて、人権作文を放送で流し、それについて静かに考えたり、感想を書いたりしました。人権集会も計画的に開催しました。また、夏休み中の平和集会（8 月 1 日）、全校朝会では、絵本「いのちのまつり」読み語り（9 月 1 日）、動画「たったひとつのたからもの」（10 月 24 日）、絵本「つながってる！」読み語り（11 月 14 日）、NHK みんなのうた「My Wish」（12 月 22 日）などを通して命の尊さや人権について触れました。引き続き、全校の生徒理解についてキャッチアップに努め、全職員で全生徒を見守るという姿勢を継続していきます。

一方で、携帯・スマホによる SNS でのトラブルが原因で、悩みを抱える事例も数件ありました。しかしながら、本来、「携帯・スマホは持たせない」ことを確認しています。ここは保護者の責任になります。もちろん、情報モラルにかかる指導は行っています。将来は携帯・スマホを持つ生活になることは容易に想定できますので、義務教育が終わる段階で、必要なモラル教育は今後も継続して計画的に行います。



(4) 学校は、社会のルールや学校の決まりについて厳しく指導している。

保（ス）〈3.3〉　生（セ）〈3.6〉

生徒指導上、誰もが安心して学校生活を送ることができるように、校則についても厳しく指導しています。その成果で落ち着いた校内の様子が維持できています。アンケート結果から、生徒自身も自覚している様子が見られます。今後も定期的な服装検査なども含め、指導を徹底してまいります。